編輯室の内外

昭和九年も彼此多忙を極めながら歳暮に迫つて來た、本號は漸く期日通り刊行することを得て衷心から喜んで居る次第である。遲れ勝ちな刊行よりは朗かな氣持ちがする。投稿諸彦各位は尙一段の指導と援助を惜むことなき樣にと切望する。殊に來一月號の原稿は本月十五日迄に惠送を希ふものである。

東北地方の冷害北陸の水害など我國民力に與へた打擊は相當なものであつたが更らに九州四國の旱害で米作の不況は吾人の臺所を威嚇したが、近畿地方の風水害では尊き人命の多數が失はれ建築材料は昂騰する。鐵材は缺乏する、工業の心臟部が破壞されて國力の發暢を阻止する、而かも武力國防の充實を急いで居る向もある、町田商相が國防は一年限りぢやない、と喝破したのはさすがに老政治家の體驗言と思はせる、老人は氣短かいが常だが此頃は若造達があせるぢやないか。飢餓に迫つた國民、失業の爲生活の途がない國民があつても銃後の謀を一日も怠つてはならないとは悲慘な事ぢや。

武力國防費が一時に巨額を要すると軍部側は主張する、しかし赤字公債は二割程減少しなければ財政は其確實性を失ふことになると財務當局は頑張る、そして窮民救濟も産業施設も民力涵養策も當分差控へなければ歳入出のバランスが取れないこととなるのである、一旦緩急あれば義勇公に奉ずるには十分な軍備が一時的に必要だとなると萬事窮する次第である。豫算割當の懸引處ぢやない。夫れこそ内務省要求に對する無軌道的削減に對しては内相初め官界に於ても關係地方でも必死の運動を盡し漸く幾分の復活を得るの見込が立つた此大運動なかりせばどうなつたか感激の外はない。

臨時帝國議會の開會も愈々迫つて來た。政府者と政黨者流との懸引は衝突か妥協か野合か、なぐり合ひか。農村救濟、産業發達天災復興國民安泰で天下太平か、押手一つで武將の鼻を高からしむるか野に山に菜葉色の老幼婦女達を生産するか、官僚一段の伸展を視るか、政黨其信用を回復するか日比谷原頭開幕の日を俟たんかな。

血盟團事件の第一審判決が下つた(一一、二二)動機が那邊にあるとも刑法の定むる人を殺したる者は死刑又は無期若くは三年以上の懲役に處すとある刑罰の中庸を採用した判決だ。殺された人々は毫末も犯人に殺さるべき理由をもたない所謂無辜の人である、國法を無視し革命を企て、無辜者を殺すも尙且死罪を免かるゝことゝなれば暗殺者は絶ゆる時なく濱の眞砂のつくる時あらんものと嘆息を禁じ得ないと思ふ者あるも怪しむに足らない。見よ判決を井上昭小沼正菱沼五郎は無期懲役古内榮司は懲役十五年、命あつての物種だ、イヤハヤおなじ死ぬなら吹雪の朝よ死なば屍に雪が積む。

定價一部　五十錢
一ヶ年分　金六圓
東京市麹町區外櫻田町一番地内務省内
發行所　社團法人道路改良會
電話銀座(57)四二七
東京市世田ヶ谷區北澤五丁目七五二
發行兼編輯者　小島效
東京市小石川區諏訪町五六
印刷所　常磐印刷所
印刷者　奈良直一